

# Kokeshi Wiki

現代に生きる「こけし辞典」への挑戦です。

[ホーム](#) [サイト内検索](#) [このサイトについて](#) [お知らせ](#) [こけしについて](#) [ご意見・お問い合わせ](#)

# 「こけし辞典」から Kokeshi Wikiへ

## 鎌田文市



〔人物〕 明治33年8月28日、宮城県白石市新町の絹糸商鎌田卯作の三男に生まれました。大正3年5月15歳で弥治郎で佐藤勘内の弟子となって木地を習得した。また大正6年頃

[続きを読む](#)

カテゴリ: 工人, 弥治郎系 | タグ: 佐藤勘内  
田文市 | 投稿日: 2015年8月28日 | 投稿者  
編集

## 記事検索

サイト内を検索

[お知らせ](#) [更新履歴](#) [Q 工人検索](#)

表示を「最終更新日時順」に変更しました。  
4年8月21日 更新  
[Kokeshi Wikiを公開します](#) 2014年4月17日 更新  
[と見る](#)

平成27年12月13日

橋本正明  
山藤輝之

## 宮本惣七



〔人物〕 安政4年4月3日、陸中国磐井郡山目村120番宮本惣内、里さの二男に生まれる。長兄は惣吉。祖父は宮本惣三郎、母里さは志田郡田尻村の斎藤新八長女。深沢要の宮本永吉からの聞きによると、「木地は、初代が惣助、二代が惣七...

[続きを読む](#)

カテゴリ: 工人, 鴉子系 | タグ: 伊藤松三郎, 守谷九蔵, 宮本惣七, 宮本惣内, 宮本惣助, 宮本永吉 | 投稿日: 2015年8月22日 | 投稿者: hashimoto | 最終更新者: hashimoto 編集

## カテゴリ

- [+] 一般項目 (253)
- [+] 工人 (1883)
- ▶ 未分類 (14)



46年 9月30日発売

英橋中白鹿	執筆	中鹿	編纂
輪本屋鳥間		屋間	
新正惣正時		惣時	
一明舜明夫		舜夫	



鹿間時夫監修

徹底的に調査された

詳細なこけし工人辞典

■本書は、総合的なこけし百科であるが、工人に関する基礎的知識の不足が痛感されている折から、その中心を工人に置いた。収録工人名は一千名におよび、人物・作品・伝統の順に詳しく解説した。

■伝統や系譜は正確にはわからない。そのため、執筆者は現地の役所にて戸籍調査を行なって、人物の経歴を詳細に解説した。さらに、工人に直接探訪して、身辺のエピソードなども盛り込んだ。挿図八〇〇を収め、作風を示した。

■工人のほか系統・地名・用語・コレクションなど、こけしに関するあらゆる事項を細大もろさず収録した。付録に系統図・地図・文献を収む。口絵カラー八頁。

東京堂出版

A5判 580頁 定価4500円 円170円

# Kokeshi Wikiの背景

作品の判明している工人項目数

こけし辞典	約550
現在	約950

昭和46年以降の新工人  
約400

新発見の資料も多い  
岩松直助文書  
鳴子町史  
長澤伊藤長作文書  
鬼首高橋長蔵文書

新発見の古品もある  
カラーでこけしを見たい

現代に生きる「こけし辞典」への挑戦

## Wikiとは

Wikiとは、Webブラウザから簡単にWebページの発行・編集などが行える、Webコンテンツマネジメントシステム（CMS）の一つ。WebサーバWebシステム上で、利用者側のコンピュータに対しネットワークを通じて情報や機能を提供するコンピュータおよびソフトウェアのこと。そのような機能を果たすサーバにインストールしてWebブラウザから利用する。

複数人が共同でWebサイトを構築していく利用法を想定しており、メンバーが簡単にページを修正したり、新しいページを追加したりできるようになっている。

例)

ウィキペディア - インターネット百科事典

ウィクショナリー - 辞典

ウィキニュース - ニュースサイト

ウィキクォート - 引用集

ウィキトラベル - 旅行、観光ガイド

ウィキブックス - 教科書

ウィキコマーズ - 企業・製品ガイド

# Kokeshi Wiki

## 2013年5月26日 最初の打ち合わせ

東京こけし友の会例会の後 巣鴨で最初の会合  
山藤輝之、軸原ヨウスケ、佐藤幸二、英里子、橋本正明  
その後執筆陣に、鈴木康郎、庄子勝徳、箕輪新一加入

## 2013年6月21日

山藤輝之：サーバー立ち上げ、環境の設定  
執筆要項、投稿要領の策定  
Wiki項目の投稿開始

## 2014年4月19日

公開

## 2015年12月現在

項目数 約370完成

**現代に生きる「こけし辞典」への挑戦**

**執筆の考え方は「こけし辞典」に準拠する。**

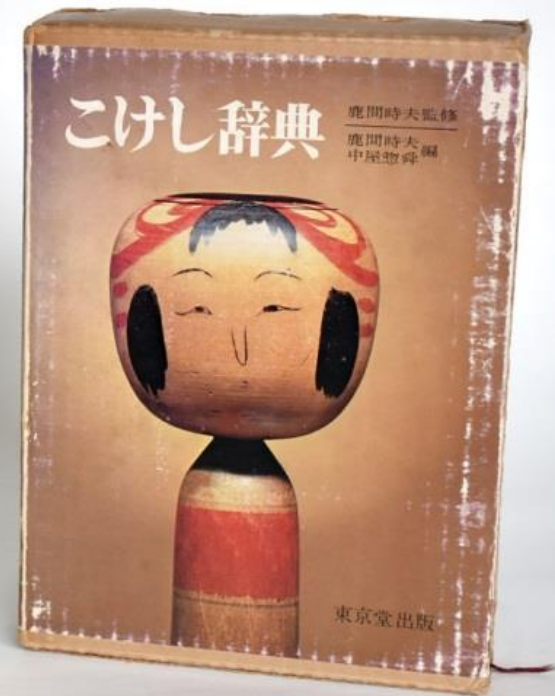
# こけし辞典出版のいきさつ



郷土玩具辞典  
(昭和46年8月)  
斎藤良輔編

こけし辞典  
(昭和46年9月)

こけし事典  
(昭和43年9月)  
菅野新一監修  
土橋慶三編著  
西田峯吉編著



## 従来のかげしの文献の記述

- 聞書、伝聞、口伝に基づく
  - 菅野新一、橘文策、深沢要、西田峯吉

## かげし辞典の方針

- かげし工人を中心にして「完全なかげしの世界像」を記述する
- 一級史料を可能な限り探す
- 一級史料：その時代の当事者が直接関与して残したもの  
寺の過去帳、墓碑（金石文）、戸籍、古文書  
（原則は戸籍表記に従うことにした）
- 複数のデータをクロスチェックする（整合性）
- 既往の文献はすべて照査し、検証する

瑞祥寺過去帳 元龜元年

延喜十二年九月  
 延喜十四年九月  
 延喜十六年九月  
 延喜十八年九月  
 延喜二十年九月  
 延喜二十二年九月  
 延喜二十四年九月  
 延喜二十六年九月  
 延喜二十八年九月  
 延喜三十年九月  
 延喜三十二年九月  
 延喜三十四年九月  
 延喜三十六年九月  
 延喜三十八年九月  
 延喜四十年九月  
 延喜四十二年九月  
 延喜四十四年九月  
 延喜四十六年九月  
 延喜四十八年九月  
 延喜五十年九月  
 延喜五十二年九月  
 延喜五十四年九月  
 延喜五十六年九月  
 延喜五十八年九月  
 延喜六十年九月  
 延喜六十二年九月  
 延喜六十四年九月  
 延喜六十六年九月  
 延喜六十八年九月  
 延喜七十年九月  
 延喜七十二年九月  
 延喜七十四年九月  
 延喜七十六年九月  
 延喜七十八年九月  
 延喜八十年九月  
 延喜八十二年九月  
 延喜八十四年九月  
 延喜八十六年九月  
 延喜八十八年九月  
 延喜九十年九月  
 延喜九十二年九月  
 延喜九十四年九月  
 延喜九十六年九月  
 延喜九十八年九月  
 延喜一千年九月

延喜二年三月十四日  
 延喜七年八月十六日  
 延喜十二年四月十六日  
 延喜十五年五月十六日  
 延喜二十年七月十七日  
 延喜二十五年九月十八日  
 延喜三十年十一月十九日  
 延喜三十五年二月二十日  
 延喜四十年四月二十一日  
 延喜四十五年六月二十二日  
 延喜五十年八月二十三日  
 延喜五十五年十月二十四日  
 延喜六十年十二月二十五日  
 延喜六十五年二月二十六日  
 延喜七十年四月二十七日  
 延喜七十五年六月二十八日  
 延喜八十年八月二十九日  
 延喜八十五年十月三十日  
 延喜九十年十二月三十一日  
 延喜九十五年二月一日  
 延喜一千年四月二日

延喜五年九月  
 延喜十年九月  
 延喜十五年九月  
 延喜二十年九月  
 延喜二十五年九月  
 延喜三十年九月  
 延喜三十五年九月  
 延喜四十年九月  
 延喜四十五年九月  
 延喜五十年九月  
 延喜五十五年九月  
 延喜六十年九月  
 延喜六十五年九月  
 延喜七十年九月  
 延喜七十五年九月  
 延喜八十年九月  
 延喜八十五年九月  
 延喜九十年九月  
 延喜九十五年九月  
 延喜一千年九月

延喜二年七月二十日  
 延喜七年八月二十日  
 延喜十二年九月二十日  
 延喜十七年十月二十日  
 延喜二十二年十一月二十日  
 延喜二十七年十二月二十日  
 延喜三十二年一月二十日  
 延喜三十七年二月二十日  
 延喜四十二年三月二十日  
 延喜四十七年四月二十日  
 延喜五十二年五月二十日  
 延喜五十七年六月二十日  
 延喜六十二年七月二十日  
 延喜六十七年八月二十日  
 延喜七十二年九月二十日  
 延喜七十七年十月二十日  
 延喜八十二年十一月二十日  
 延喜八十七年十二月二十日  
 延喜九十二年一月二十日  
 延喜九十七年二月二十日  
 延喜一千年三月二十日

一級史料：過去帳

麻生政治改名  
岩松直助  
明治七甲年  
長安良道信士  
五月廿二日  
羽後秋田雄勝郡  
三梨村出生  
行年四十七才

A

岩松直助

天保八丁酉年  
九月十二日  
(梵)秋岸妙音信女

E

嘉永四亥年  
十一月十四日  
完上觀音当村  
庄作

F

嘉永二酉年  
閏四月十七日  
(梵)郎翁道夏信士

C



嘉永三庚年  
二月廿日  
积春翁信士  
庄吉

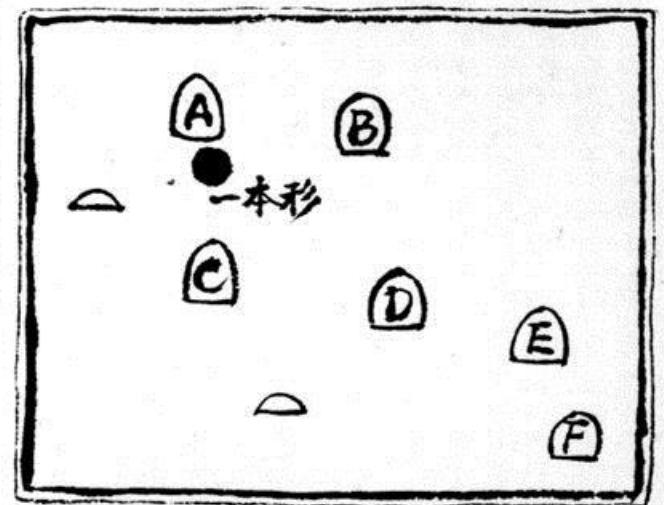
B

慶応元年  
十月八日  
(梵)忠翁夕義信士  
六十五才

D

作並温泉  
一本杉の墓地

南條徳右衛門



一級史料：墓碑銘

作並温泉一本杉墓石群





こけし辞典執筆時の調査ノート

# こけし辞典の方針

- 一級史料を可能な限り探す
- 一級史料：その時代の当事者が直接関与して残したものの  
寺の過去帳、墓碑(金石文)、戸籍、古文書
- 複数のデータをクロスチェックする(整合性)  
同じ時期同じ場所で仕事をした複数の工人聞き書き

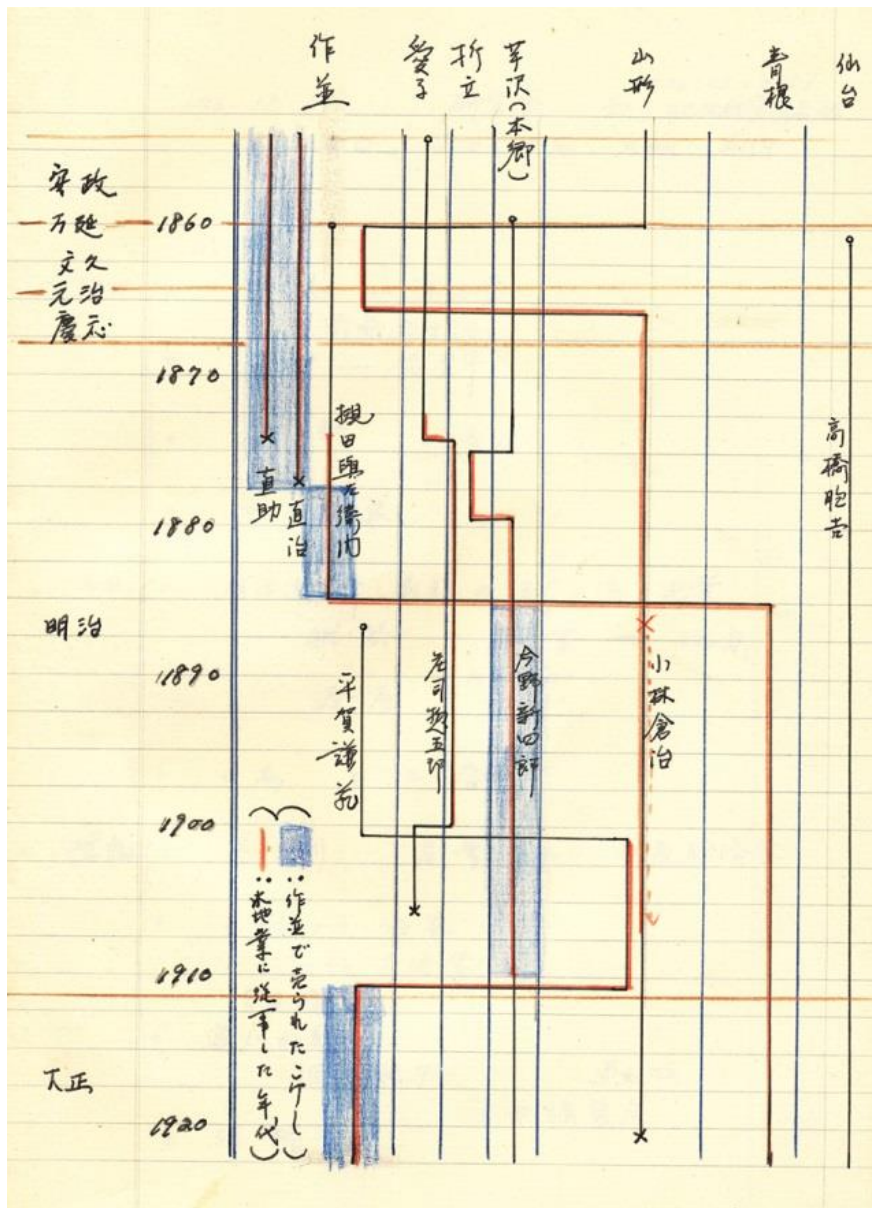
- 既往の文献はすべて照査し、検証する

記述が比較的正確だった文献(矛盾が少ない)

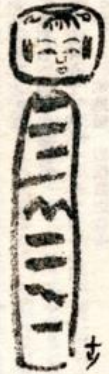
- ☆ 蔵王東麓の木地業とこけし(佐藤友晴著)
- ☆ 鳴子・こけし・工人(西田峯吉)
- ☆ 羨こけし(深沢要著)
- ☆ 蔵王東のきぼこ(菅野新一著)

役に立った雑誌

- ☆ こけし手帖 (執筆者による)
- ☆ 土湯木でこ考
- ☆ 鴻 (年代変化や鑑別を議論した最初の文献)



4次元年表  
データクロスチェックの例



岩松直助と作並木地業

楠 本 正 明

現在こけし系統論において最も重要な研究課題の一つは作並系の系統発生問題であろう。木地の系譜、こけしの発生あるいは伝承、題吉の位置付け等基本的な問題が議論の出来ないまま残されている。系統名でさえ、作並系であったり、山形系、山形作並系と諸説がある。こうした問題を扱うには、まず資料をできるだけ多く収集し、それを重要度、信頼度という点から整理する必要がある。またこうした実証的作業に併行して系統の発生構図を構築するという理論的作業を進めなければならぬ。実証的作業においても作並の場合は研究の対象となる年代が幕末から明治一〇年頃になるため

- 従来の図書中心の調査方法には限界があり、どうしても近世地方史研究の方法論が導入されなければならないだろう。ここでは、こうした展望にたった研究の第一歩として岩松直助に関する資料を整理し、岩松の木地的性格を考える事にしよう。
- まず従来の文献より、木地師岩松関係の既往資料を整理すると次のようになる。
- 一、作並には岩松徳右衛門・直助・直治という木地師がいた(海・三三、郵愁・一一、手帖・一〇、三三、ガイド、追恋)しかし、徳右衛門・直助・直治の関係については、父子、兄弟等諸説ありさだかではない。
  - 二、山形の小林倉治は、徳右衛門あるいは直助に師事し、直助没後残された長女つるを養女として山形へ連れ帰った。つるは後年、作並の平賀太五郎の後妻となった(手帖・三三)。
  - 三、直助は大沢村龍根の伊達公御抱木地師小倉氏の五代目を後継した木地師(手帖・四八)あるいは大沢村龍根の木地師に弟子入り見習いした木地師である。しかし、龍根即ち龍ノ上の仙台藩御抱木地師は新国家のみであるから直助は新国家より木地の伝承を受けたと考えられる(手帖・六八)。
  - 四、岩松直助は秋田から来た木地師で、湯元岩松旅館

こけし山河第17号 (昭和47年9月)  
木の花「仙山紀行」 (昭和50年2月)

こけし辞典出版記念会



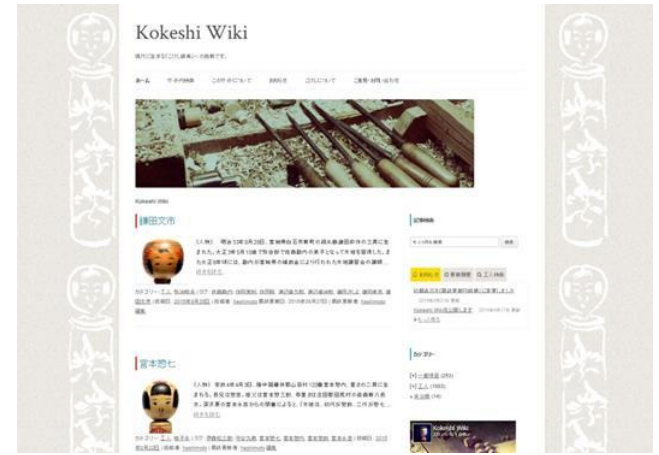
# こけし研究のアプローチ(鹿間時夫と西田峯吉)

## 西田峯吉

- 農林省(蚕系)
- 研究者のモデル 農務省の先輩 柳田國男
- 柳田國男は民俗学を「学」として認知してもらえるように、後年は非常に慎重な記述姿勢となった。西田峯吉も趣味道楽の世界から、「こけし」が研究対象として認知されるために慎重厳格な姿勢を維持した。仮説段階での発表はせず、検証確認を優先した。

## 鹿間時夫

- 古生物学者(東北帝国大学) 後年 横浜国大教授、早稲田大学講師
- 古生物の形態分類の権威 同じアプローチで「貝」の分類も行った。
- 古生物、貝に関する著書多数
- こけしの他、古民芸にも趣味は広かった
- 自分の学問は既に認知されていたから、方法論に関しては揺るぎが無かった
- 古生物や貝の世界観を組み立てたように「こけし」の世界観も構築できる自信があった。系統分類は専門であった。
- 「こけし辞典」は、その集大成であり、こけしの世界全体の知識を包括するものを目指していた。



## Kokeshi wiki によって改善される点

- 適時に情報を修正、更新できる（工人動静、こけしの変化、誤りの修正）
- 利用者（読者）からのコメントや情報を即座に反映できる（読者の参加）
- スマホで見られるのでどこにでも携帯できる（こけし辞典は重たい）
- カラーの写真を多く掲載できる
- 工人の映像や動画の掲載、リンクも出来る 例：<http://kokeshiwiki.com/?p=1122>
- Google Mapへのリンクも可能 例：<http://kokeshiwiki.com/?p=1437>
- こけし関連全体へのポータル化の可能性 例：<http://kokeshiwiki.com/?p=957>

# 現在の開発段階

工人項目 350 一般項目 20

## 【アクセス数の多いページ】

1	小椋久太郎
2	桜井昭二
3	佐藤巳之助
4	佐藤文吉
5	志田菊宏
6	こけしの産地
7	阿保六知秀
8	佐藤一夫（遠刈田）
9	佐藤伊太郎
10	鎌田文市

## 【検索キーワード上位】

1	阿保金光
2	佐藤伊太郎
3	こけしwiki
4	こけし
5	小椋久太郎
6	木地山こけし
7	小椋英二
8	会田栄治
9	盛美津雄
10	料治熊太

直近1年の平均アクセス数はユニークユーザーで約125人／日



先輩たちは  
「こけしガイド」  
片手に産地巡り、  
いまはスマホで  
Kokeshi Wiki !

Responsive対応



# お願い

- 利用者（読者）からのコメントや情報を即座に反映できる（読者の参加）



## ご意見・お問い合わせ

- 追加情報・新情報
- 誤りの指摘
- 疑問
- 改善提案
- 一般コメント

A form titled 'ご意見・お問い合わせ' (Opinion/Contact). It contains four input fields: 'お名前 (必須)' (Name, required), 'メールアドレス (必須)' (Email address, required), '題名' (Subject), and 'メッセージ本文' (Message body). A red arrow from the circled menu item in the screenshot above points to this form.



Kokeshi Wiki      Facebook

<https://www.facebook.com/kokeshiwiki/>



Kokeshi Wiki      Twitter

<https://twitter.com/kokeshiwiki>

**Back up**



「こけし辞典」出版記念会 柴田長吉郎さん 橋元四郎平さん

## 【西田峯吉プロフィール】

1900年（明治33年）生まれ 島根県安来市広瀬町布部（旧・布部村）出身  
大正14年、大学卒業後農林省に入省。蚕糸業に関わり、  
研修旅行で東北地方を廻った際にこけしに出会う。  
昭和31年～平成3年まで東京こけし友の会会長を務め、  
鳴子温泉の全国こけし祭りコンクール審査委員長も長く勤める。  
1993年（平成5年）没。  
平成7年4月、福島市内に「原郷のこけし群西田記念館」開館。



## 【西田峯吉の代表的なこけし関係著書】

昭和17年「古形志加々美」（菊楓會同人＝土橋慶三・溝口三郎・西田峯吉・金森遵）  
昭和18年民族玩具叢書第5巻「こけし風土記」（新龍社）  
昭和28年～昭和30年「こけしの郷愁」（東京こけし友の会）  
昭和30年～「こけし手帖」（東京こけし友の会）  
昭和31年「こけし」（共著：土橋慶三）  
昭和36年「こけし風土記」  
昭和36年「こけしの美」（監修 米浪庄式、鹿間時夫、西田峯吉、土橋慶三）  
昭和39年「鳴子・こけし・工人」  
昭和43年「こけし事典」（菅野新一監修・土橋慶三・西田峯吉編著）  
昭和47年「こけしのふるさと」（菅野新一監修・土橋慶三・西田峯吉編）  
昭和50年「こけし伝統の美 心豊かな人形の世界」  
昭和62年「図譜・原郷のこけし群 西田峯吉コレクション第1集・第2集」

## 【鹿間時夫プロフィール】

1912年6月6日（明治45年）生まれ 京都市出身

1931年（昭和6年）～1939年（昭和14年）東北大帝国学地質学教室で  
葛生化石動物群について調査。ニホンムカシジカやクズウアナクマなどの新種11種発見。

1950年（昭和25年）東北大学理学博士。横浜国立大学教授。古生物学研究。

東京こけし友の会幹事 こけしの会同人

1978年12月12日（昭和53年）没。

## 【鹿間時夫の代表的なこけし関係著書】

昭和18年「こけし襍記」

昭和28年～昭和30年「こけしの郷愁」（東京こけし友の会）

昭和30年～「こけし手帖」（東京こけし友の会）

昭和29年「こけし・人・風土」

昭和41年「こけし 美と系譜」（中屋惣舜・鹿間時夫著）

昭和42年「こけし鑑賞」

昭和46年「こけし辞典」（中屋惣舜・鹿間時夫編）

昭和49年～「木の花」（こけしの会）

昭和51年「こけしの旅」（こけしの会）

昭和55年「美の遍歴－民芸とこけしより南画へ－」

